

首里城の早期復元の実現に関する緊急決議

本年10月31日未明に沖縄県那覇市の高台にあり、琉球王国の歴史や文化を今に伝えていた首里城で火災があった。この火災により首里城の主要な建造物である正殿や北殿、南殿・番所など7棟が焼失した。

日本と中国の築城文化を融合した独特の建築様式や石組み技術には高い文化的・歴史的な価値があるとして、平成12年に史跡「首里城跡」が「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として「世界文化遺産」に登録された。

平成30年度には280万人を超える入園者が訪れるなど、復元された首里城は、琉球・沖縄が歩んできた歴史・文化の象徴として、多くの観光客にも親しまれてきた。

琉球の歴史、文化の息吹を伝える沖縄のシンボルであり、鮮やかな朱色に彩られた首里城の正殿等が、今回、火災により全焼し、沖縄県民をはじめ多くの国民が大きなショックを受け、喪失感に包まれている。

我が国が誇る「世界文化遺産」であり、歴史や文化の心に彩られた首里城は必ず復元させなければならない。

全国知事会は、沖縄県並びに沖縄県民とともに首里城の早期復元の実現を強く念願する。国においては、全力を挙げて早期復元に取り組まれるよう、ここに決議する。

令和元年11月11日

全 国 知 事 会